

## 駐妻のヒューストン日記

第211回 森崎優子 さん



小泉元首相がおっしゃった有名な言葉に「人生には三つの坂がある」というものがあります。一つ目は登り坂、二つ目は下り坂。そしてもう一つ「まさか」という坂です。私はヒューストンに来て約1年になりますが、早速この「まさか」を経験しました。それは交通事故です。免許を取得してウン十年、「まさか」自分が事故に巻き込まれるなんて思いもしませんでした。今回はこの事故で私が経験した事を書きたいと思います。

(あらかじめお伝えしておきますが、双方怪我はなく、車同士の事故の話になります。)

まずは状況説明から。娘を幼稚園に迎えに行った帰りの事です。運転しながら、今日はいつもより車が多いな、と思っていました。すると前を走っていた車が突然、かなりの勢いでブレーキを踏みました。どうやら車が強引に車線に割り込んできたようです。私も急ブレーキを踏み、前の車に追突するのは免れましたが、ブレーキが間に合わなかった後ろの車が、私の車にドーンと追突しました。

まさかの事故に遭ってしまったショックで、目の前が真っ暗になりました。でも「落ち着け」と自分に何度も言い聞かせながら、まずは娘に怪我がないか確認しました。幸いにも大丈夫そうでしたので、後ろの車の様子を伺いながら、恐る恐る車を降りました。すぐに相手の方も降りて来て、お互い怪我がない事を確認しました。

相手は20歳くらいの若い男性で、彼女と一緒にでした。その彼女が警察に電話をしてくれている間に、相手の男性とお互いの免許証、保険、連絡先を交換し、車の破損箇所の写真を撮りました。

それから警察はすぐに到着しました。警察の誘導で車の少ない場所に移動し、事故状況の説明をすることになりました。今回のケースは追突なので、私の過失は基本ないはずですが。しかし相手の説明次第では、変わるか

もしれません。相手がどのように警察に説明しているか必死に聞きましたが、私の英語力ではうまく聞き取ることができずとても不安でした。

そんな時です。同乗していた彼女がなんと日本語で話しかけてきました。聞くと、彼女は高校時代に日本語のクラスを取っていて、日本が大好きとのこと。私が娘に話しかけているのを聞いて、日本人だとわかったみたいです。高校を卒業してから、日本語に触れる機会がなく、久しぶりに日本語が聞けて嬉しいと言っていました。

彼女は警察と彼がどういう話をしているかを日本語で説明してくれて、また私が警察と話をしている時は、娘の相手もしてくれて、優しい彼女にとっても助けられました。

優しいと言えば、警察もそうです。待っている娘に「お利口だね」と、お菓子やぬいぐるみのプレゼントをくれました。その強面な様子とうらはらな、細やかな気遣いが嬉しかったです。

そうこうしているうちに、警察の調書作成も終わり、帰っていいよ、ということになりました。相手の2人と(なぜか)笑顔で別れ、車に乗ってハンドルを握った時に、自分の手がとても冷たくなっていたことに気づきました。その瞬間、どっと疲れが襲ってきて、ああ私ものすごく緊張していたんだな、もう二度とこんな思いはしたくない、しばらく運転したくない、と思いました。しかしそんな思いもむなしく、帰ってすぐ息子のサッカーの送迎をしなければならぬ事を思い出しました。可愛い子どものために、母は頑張るのみです。

余談ですが、警察がプレゼントしてくれたぬいぐるみ、「クラッシュ」と書かれた可愛いハートを抱えています。娘は今でもこのぬいぐるみがお気に入り、よく一緒に遊んでいます。私はその様子を見る度、わざわざ「クラッシュ」なんて入れなくていいのに、と事故を思い出して微妙な気持ちになっていたのですが、実は「crash」ではなく、「crush」と書かれていることに最近気づきました。英語ドラマに出てくる「I have a crush on you! あなたに首ったけ!」の「crush」です。「まさか」の勘違いに、穴があったら入りたい気持ちでいっぱいです。

皆様も「まさか」の事故、どうぞお気を付けください。



## Houston Walker

■May 29

[Indianapolis 500-Mile Race](#) @ Indianapolis Motor Speedway

インディ500の愛称で知られる、アメリカを代表する自動車レースです。日本人では2017年、2020年の2度、佐藤琢磨選手が栄冠を手に入れています。今年もレースの行方から目が離せません。

■Jun. 3-5

[Houston Tattoo Arts Convention](#) @ NRG Center

日本だと銭湯に入れてもらえなくなる入れ墨ですが、アメリカではファッションの一部になっているようで全米からtattoo artistがやってきます。

■Jun. 9-12

[Moon2Mars Festival](#) @ Space Center Houston

人類が月面着陸を果たしてから53年。次の目標である火星に人類が降り立つのはいつになるでしょう。最新のテクノロジーに関する講演会や展示に加えて音楽のライブまであるお祭りです。

■Jun. 16-26

[Madame Butterfly](#) @ Brown Theater

プッチーニの名作オペラ『蝶々夫人』がバレエになって上演されます。日本人にとっては少々複雑な感情を抱いてしまう作品ですが、西洋から見たジャポニズムがどんなものなのか、確認するよい機会になるかもしれません。

■Jun. 17-18

[The music of Led Zeppelin](#) @ The Hobby Center

オーケストラがヘビメタルに挑戦!?意外な組み合わせですがヒューストン交響楽団がレッド・ツェッペリンの名曲に挑みます。

■Jun. 30-Jul. 17

[Disney's Frozen](#) @ The Hobby Center

ディズニーのアニメ映画『アナと雪の女王』がミュージカルになりました。推奨年齢は6歳以上で、2歳以下のお子さんは入場できませんのでご注意ください。



## 編集後記

今月号の記事は、対面での常任理事会開催やジェトロ様を講師に迎えた講演会、入学式、ソフトボール大会など、2年振りや3年振りといった甲子園出場校の様な枕詞がついた対面でのイベントが数多く見られ、Post Covidを実感するような紙面になっているかと思えます。その感動をより鮮明にお伝えすべく、通常よりも写真が多くっております。ソフトボールで優勝されたAstrosの皆様の集合写真(特集記事ご参照)は、まるでCovidによる閉塞感から解放されつつある昨今の晴れやかさを象徴するかの様な、満面の笑顔で溢れていました。

まだまだ高水準なインフレ率やガソリン価格の高止まりなど我々の家計への影響も小さくはなく、今後の米国の更なる金利利上げ見通しや景気のリセッション観測と先行きへのマイナス要素も多くあります。最近は見慣れてきてしまった戦地のニュースも、情勢が長期化しており、我々の日常にも暗い影を落とします。しかし、今回の様なプラス方向の変化点をきっかけに、より前向きに、より活発的に日常を過ごすことで、2年目のヒューストン生活を濃密なものにしていきます。

(編集委員: 東 尚史)

ガルフストリームは毎月15日発行です。

編集委員および投稿募集中!

問い合わせ先: [sansuikai@jbahouston.org](mailto:sansuikai@jbahouston.org)

ガルフストリームは、ホームページでも閲覧可能です。

<https://www.jbahoustonongulfstream.com/>

発行: ヒューストン日本商工会

発行責任者: 川上篤樹

編集委員長: 稲田徳弘

構成・編集: ガルフストリーム編集委員一同

内容は記事執筆時点の情報に基づいています。変更になる場合もありますので、お出かけ前に各自で最新の情報を主催者サイト等でご確認ください。